

## マレーシアでのアジア・エネルギーセキュリティを巡る議論

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所  
常務理事 首席研究員  
小山 堅

10 月 3～5 日、マレーシアのクアラルンプールとプトラジャヤにおいて、現地のエネルギー関連政府機関、国営エネルギー企業、大学・研究機関、民間エネルギー企業の関係者と、マレーシア及びアジアのエネルギー問題に関する意見交換を行う機会を持った。その一環で、10 月 4 日には、マレーシアの Energy Commission において、「Energy Security in Asia: Growing Uncertainties and Challenges for the Future」と題する Public Lecture を筆者が行った。筆者は、2015 年 12 月から、マレーシアの Energy Commission of University Tenaga National の国際アドバイザーを務めており、その関係もあって今回、Energy Commission からの依頼で、アジアのエネルギーセキュリティに関する Public Lecture を引き受けることとなった。

しかし、多くの人にとっては、今なぜエネルギーセキュリティなのか、という素朴な疑問もあるであろう。国際エネルギー市場の基調は相変わらず供給過剰であり、原油価格も、LNG 価格も 2014 年前半までの高価格期と比べて低迷状況が続いている。需給逼迫・高価格期であればともかく、現状のような市場状況でエネルギーセキュリティを議論するのは何故か、何のためか、という問題意識があっても決して不思議ではない。

しかし、市民生活や経済活動にとって不可欠・必須の物資であるエネルギーの必要十分な量を安定的に、かつ合理的な価格で確保する、と定義できるエネルギーセキュリティは、どのような状況、どのような国・主体にとっても最も重要な政策・戦略課題である。IEA 事務局長の Fatih Birol 氏が強調するように、エネルギーセキュリティの重要性はエネルギー価格の高低によって左右されるものでない、という本質を認識することが重要である。もちろん、高価格の時にはエネルギーセキュリティは、特に消費国・消費者にとって容易に重要性を意識することができる。しかし、低価格の時にも、生産国・生産者の経済・社会状況を悪化させ、エネルギー供給投資を削減し、省エネルギー投資の阻害・抑制要因になるなど、エネルギーセキュリティに関する様々な不安要因を作り出すことになる。まさに、現在の供給過剰・価格低迷状況は、足下においては、消費者に恩恵をもたらしている面が大きいですが、同時に、将来の不確実性と不安定要因を増幅させている点に注意が必要なのである。

また、これまでの国際エネルギー市場の歴史では、エネルギーセキュリティが重要性を

増し、政策・戦略的観点から関心を集めるのは、当該国・地域がエネルギー輸入依存体質になり、輸入依存度が上昇する時である。米国が1960年代に石油純輸入国に転じた後、あるいは中国が1990年代に石油純輸入国に転じた後、両国ともに急速にエネルギーセキュリティへの関心が高まる動きを示した。その点、まさに今 ASEAN 地域は、そしてマレーシアは、石油・ガス・LNG 等に関して、純輸出低減・純輸入国化・輸入依存増大などの方向に需給バランスが変化しつつある。その結果、中国、インド、そして ASEAN などを包含するアジアの輸入依存度は将来上昇の一途を辿ることは必至とみられている。この点こそが、現状は供給過剰・低価格であっても、潜在的にアジアにとってエネルギーセキュリティが看過できない重要問題であるポイントとなる。

さらに、エネルギーセキュリティがエネルギー政策・市場関係者に強く意識されるためのもう一つの重要な要素は、供給に対するリスク認識の有無・高低である。アジアの輸入依存度が上昇していく中、とりわけ石油供給に関しては中東依存度が2015年の53%から、今後一層高まっていくことが予想される。LNG 供給における中東依存度も37%と決して低くない。その中東においては、IS 問題を始めとするテロリズムの拡散、域内大国であるサウジアラビアとイランの確執、シリア・イエメン等の内戦など、地政学リスク・緊張関係は著しく高い状況が続いている。また、サウジアラビアにおける今後の国内体制の安定、経済制裁緩和への期待とその実際の進捗の遅れのギャップによるイラン国内でのフラストレーションの増大、など注意を要する動向も多々見られる。

現在は、まさに供給過剰の真只中にあるため、これらの地政学リスク要因等が特段の問題となっていないが、アジアのエネルギーセキュリティにとって、中東を始めとする主要供給地域の安定は重要な要因である。また、輸出入と国際貿易が拡大していく中では、シーレーンやエネルギー輸送の安定確保もアジアのエネルギーセキュリティの課題となる。さらに、供給への新たなリスクとしてはサイバー攻撃等によるものなど、非伝統的な脅威も存在するようになっている。

これらの点から、現時点では供給過剰の存在から必ずしも喫緊課題ではないかもしれないが、アジアでエネルギーセキュリティへの取り組みは中長期・戦略的視点から重要性を増している。まさに、マレーシアという主要な資源国・エネルギー産出国においても、将来を睨んだ戦略的な検討が必要になっている、ということを今回の意見交換で実感した。

弊所は、10月21日に、2040年に向けたアジアと世界のエネルギー・環境課題に関する最新の分析を「アジア/世界エネルギーアウトック 2016」において発表する予定である。その中心トピックとして、実は、ASEAN のエネルギー見通しと、大規模供給途絶によるエネルギー市場・世界経済への影響分析を提示する。今回のマレーシアでの意見交換は、この最新分析の発表に先立って、成長する ASEAN 地域の課題とエネルギーセキュリティ問題の重要性を改めて認識する機会となった。

以上